



地域やグループとの連携で 全領域のサービスを提供 一人の患者の生涯に寄り添う

1975年に関西医科大学3番目の付属病院として開院し、現在は美杉会グループの一員となった男山病院。注力する救急や回復期リハビリ、緩和ケアの特長やグループの総合力について話をうかがった。



PROFILE

社会医療法人 美杉会 男山病院

荒木 雅人 院長

包括的医療で地域貢献

治療や相談の初期対応から 在宅医療・介護の基盤に

「美杉会グループの中核病院として、法人内の各施設と一体的運用に努めています。当院では急性期医療の初期対応から、回復期リハビリや緩和ケア、在宅医療、介護分野まで幅広い役割を担ってきました。グループ全体では、医療・保健・介護の全領域のサービス提供を可能として、地域包括ケアシステムを整備済みです。現在のグループ体制は28施設で73事業所を展開し、職員数は約2300名。訪問看護や訪問介護のほか、介護施設や健診センターなど多種類の機能を有しています」と荒木院長は語る。同じく美杉会グループで、がん診療を得意とする佐藤病院とは電子カルテの共有システムを構築。情報を円滑に共有することで、がん患者さんへの治療から緩和ケアまで一貫したサービス提供を実現した。男山病院



1.柔軟に入退院を切り替えられる緩和ケア病棟 2.患者さんの最初の窓口「地域医療連携室」。地域の開業医や介護施設と連携しながら、地域完結型の医療を提供している 3.人工関節置換術では先端技術「ナビゲーションシステム」を導入。人工関節の耐用年数の長期化や関節機能の改善などの効果が期待できる

独自のリハビリと緩和ケア

高い復帰率の回復期リハビリ 自由に入退院できる緩和ケア

男山病院では治療後のQOLの維持・向上にむけた回復期リハビリも充実。専用病棟を構え、1日でも早い日常生活への復帰を支援する。院長いわく「当院の回復期リハビリの特徴は在宅復帰率が高いこと。保険適用内のリハビリ期間で、日常生活が送れるようになった患者さんの割合を意味します。看護師や療法士といった多職種人材の充足や、当院の注力分野である整形外科医も含めた毎週のカンファレンスが功を奏しています」とのこと。また、八幡市では対応施設が少ない緩和ケア領域でも地域に貢献。特徴は入退院を繰り返せる柔軟な受け入れ体制にあるという。「緩和ケアの基本方針は、患者さんとご家族が過ごせる時間をできるだけ長くすること。入院期間は平均で4週間と一般的な数値よりも短く、早期の退院が可能です。在宅療養におけるご家族への負担も考慮して、できる限り自由に入退院できる体制を用意しています」と緩和ケアの在り方を教えてくれた。そのほか、輸血・点滴・医療用麻薬の使用など医療行為にも柔軟に対応。これら充実した一つの機能をかけ合わせて、がん患者さんに緩和ケア中のリハビリを提供できるのも同院ならではの。現行の制度下では診療報酬が算定されないため無償ではあるが、患者さんが最後まで納得した人生を歩めるようにサポートを欠かさない。

男山病院の機能拡大で グループの総合力を強化



専用の病棟を構え、通所リハビリも可能な回復期リハビリセンター。他職種のスタッフを配置して、1日でも早い日常生活への復帰をサポートする

今後は同グループ内の他施設が担うことのできない分野に投資して、更なる地域貢献を目指す。例えば、同院が注力している整形外科領域では、先端技術のひとつ「ナビゲーションシステム」を導入。リウマチや変形性関節症などの疾患に対して、1度単位の細かな人工関節置換術が可能となった。そのほか、高齢者の多い八幡市の特性に合わせ、骨粗鬆症の予防や診療にも注力。病院全体で骨粗鬆症マネージャーの資格取得に取り組みながら、地域体となり高齢者の暮らしを支えていく。男山病院の機能拡大によるグループの総合力強化は、理想の地域完結型医療を現実的に近づけるはずだ。

hospital data

社会医療法人 美杉会 男山病院 / TEL:075-983-0001 八幡市男山泉19 <http://misugikai.jp/otokoyama/>

▶ 医療詳細ページ有り ● ● ● P